

ロゴセラピーの概念和訳の問題

ロゴセラピーの概念和訳の問題

勝田 茅生

2001年に日本でロゴセラピー入門ゼミナールを始めるにあたって、最大の問題は、フランクルのドイツ語の概念をどう和訳するかということでした。ドイツに長く暮らしてドイツ語で日常生活を送っている者にとっては、フランクルの使っている概念の意味を理解するのは、そう難しいことはありません。

けれどもこれを「ドイツ語と同じような意味に受け取れる日本語」に翻訳するのはそう簡単ではありませんでした。えてしてそれに該当する日本語がないこともあるからです。そのために時には、日本で通常使っていないような合成語になってしまうことは避けられず、正直言って奇妙な日本語ができあがったことも否定できません。

この記念論集の出版にあたって、フランクルの概念がどうしてこういう日本語に訳されたかを簡単に説明したいと思いました。これから新たにフランクルやロゴセラピー関係の著作を翻訳しようとしている人たちにも参考になるかもしれないからです。

1. 「精神」(Geist) と 「心身態」(Psycho-physikum)

フランクルは次元的存在論の中で3つの次元をはっきり区別していることは皆さんご存知の通りです。

ドイツ語 (カッコ内は形容詞)	古典ギリシア語	和訳	2分した際の概念	和訳
Geist (geistig)	Noos	精神	Geist	精神
Seele (seelisch)	Psyche	心理	Psycho-physikum	心身態
Leib (physikalisch)	Soma	身体		

- 1) ヨーロッパでは19世紀から20世紀初頭にかけての学術用語にはラテン語とギリシア語が使われていました。けれどもフランクルがあえて「ガイストGeist」というドイツ語を使ったことは、彼の思想の背景に伝統的なドイツ